



平成28年9月16日

岡山高島屋屋上地ビール祭に「復興エール」が登場 海水が流入した農地でも栽培可能なオオムギの開発へ

岡山大学資源植物科学研究所では「東日本大震災復興支援プロジェクト」として、東日本大震災で海水が流入した農地でも栽培可能な新しいビール用オオムギの開発を目指しています。

宮城県はビール用のオオムギの作付けがほとんど無いため、内陸で同じ栽培特性を持つ品種の生産試験を実施。栽培したオオムギの試験醸造を宮城県の「やくらいビール」が担当しています。醸造したエールタイプのビールは、復興にエールを送る意味から「復興エール」と名付け、2014年から販売しています。

今回、岡山高島屋屋上で10月8～10日に開催される「岡山高島屋屋上 地ビール祭」に、宮城県から醸造担当者を招いて「復興エール」を販売します。

【東日本大震災復興支援プロジェクト】

本学資源植物科学研究所では、東日本大震災による津波被災農地の修復のため、塩害に強いオオムギと湿害に強いオオムギを交雑して、海水が流入した農地でも栽培可能な新しいオオムギの開発を続けています。オオムギは、国産の優良品種「はるな二条」をもとに塩害と湿害に強い特性をゲノム置換法という技術によって開発しています。



宮城県では、現在、ビールオオムギの作付けがほとんどないため、まずは、このオオムギと同じ栽培特性を持つ「はるな二条 HKI」を内陸の加美町で栽培し、ビール麦芽用のオオムギの生産試験を行っています。また、昨年からは東松島の津波被災地で「はるな二条 HKI」の大規模生産と耐塩、耐湿系統の試験栽培を開始しました。

(写真：加美町のオオムギ現地実証栽培試験 農地)

現在、津波被災地で生産したオオムギでビール醸造を実施中で、この秋以降の製品化を目指すほか、岡山でも吉備土手下麦酒の協力により、ビールの醸造、販売を行う予定です。

【復興エール】

生産試験で収穫したオオムギを加美町第三セクターの「やくらいビール」が試験醸造。エールタイプのビールを製造し、復興にエールを送る意味から「復興エール」と名付けました。



PRESS RELEASE

【岡山高島屋屋上 地ビール祭】

日 時： 10月8～9日（正午～後9時）

10月10日（正午～後6時）

場 所： 岡山高島屋屋上

プロジェクト実施： 岡山大学資源植物科学研究所

協 力： 宮城県古川農業試験場、栃木県農業試験場、宮城県加美よつば農業協同組合、やくらいビール、加美町本田浩（栽培）、吉備土手下麦酒醸造所、東松島みらいとし機構

<お問い合わせ>

プロジェクトに関すること

岡山大学資源植物科学研究所

教授 佐藤和広

（電話番号）086-434-1244

ビール醸造に関すること

やくらいビール（宮城県加美町）

（電話番号）0229-67-5211

※地ビール祭については、直接岡山高島屋へお問い合わせください。